



澄み切った秋空に響きわたる
山西小の名物“YOSAKOI ソーラン2011”
(10/8 山西小学校運動会)

湘南 にのみや 議会 じより

平成23年
9月定例会
9/2～9/26

- ◆決算に対する総括質疑に3議員…………… 2～3 P
- ◆平成22年度の決算審査…………… 4 P
- ◆一般質問で5議員が登壇…………… 9～11 P
- ◆22年度の予算審査意見を追跡…………… 12 P
- ◆町を彩る団体紹介…………… 14 P



12月定例会のお知らせ

12月2日(金)から開会の予定
本会議・委員会の傍聴できますーお気軽にどうぞー

22年度の決算をただす

総括質疑

機能的な避難所運営の構築を！事業効果の公表を求む

三橋 智子議員

三橋 東日本大震災で多くの学校が避難所として使用された際、生徒の安全対応を必死に行う教師



が、同時に避難所運営にも追われてしまったことが課題となった。本来、主体となる地域の自治会がすぐに避難所の運営ができるように、日ごろから学校を開放し、非常時に備えておくことが必要だと思いませんか。

学校の有効活用はかる

町長 文科省の検討会でも学校を地域の複合施設と捉える考えがある。今後は空き教室の有効活用

根岸ゆき子議員

実現性ある総合計画策定を！ 公共施設の雇用は公募原則



等を検討していきたい。
三橋 校内の電球など非構造物の耐震化や、省エネ対応の推進も同時に進めていただきたい。
町の観光事業の整備推進にあたって、今まで行った様々な環境調査は参考にされているのか問う。
町長 既存の自然や地形を活かせるよう各所で配慮している。今後の生物多様性の保全に大きく効

果があると考ええる。
三橋 増加する単身高齢者を孤立させないための施策や生活支援の充実が求められるが。
町長 社協や生きがい事業団に委託して高齢者の居場所作りや、生活支援を推進させている。
三橋 毎日のごみ出しは切実な問題となっている。行政が積極的に関わっていくべきだと考える。
税外収入を求めた町内施設使用料改定から2年が経つ。検証はされたのか。
町長 入場者の減少もあ

使用料増収は1千万円

まりなく、年間1千万円前後の増収となっている。
三橋 増収分を福祉など特化的に利用できると効



避難所の付帯備品の耐震化も急がれる

果的。町民の協力が大きい。のだから、その結果はぜひ公表していただきたい。

力を大きな力としてまわづくりを進めたい。

根岸 これまでの総合計画を総括し、町長の言葉として伝えるべきだ。また、今までの満足度調査の評価項目に入っていない「観光事業」は坂本施策の目玉となるが落としどころが見えない。

根岸 総合計画策定の時期を迎え、その重要性について町長の考えを問う。
町長 基本的には10年スパンというのは具体的に書けないため反対だが、策定はする。自治力と地域

町長 観光は産業を作り、活性化をして移住者や税収の増加にもつなげたい。3つのプロジェクトと

して今後評価されていく。
 根岸 公共施設への雇用については退職職員も含め、一般公募を原則にするべきだが、町の考えは。

町長 異なる施設の性格を考慮した中で経験を必要とする場所に配置している。職員が年金をもらう間までの3年間と限定し、その方法はこれらも変えない。臨時雇用の方も最長3年として1年休んで再応募できる要綱作りを進めている。

根岸 五ツ浦漁業所有地（8千500万円）の購入に土地開発基金を活用したが、将来展望は。

町長 開発公社での取得も検討したが、分割が可能で利払いの発生しない基金活用とした。土地購入は、背後地整備における計画に必要不可欠で、将来的には一部を利用者へ売却したい。

根岸 「東大農場跡地買取りの場合は基金活用ができる」と前回の本会議で発言されたが、基金の活用は町民にわかりにくい方法だ。慎重な取り扱いを望む。

町長 開発公社での取得も検討したが、分割が可能で利払いの発生しない基金活用とした。土地購入は、背後地整備における計画に必要不可欠で、将来的には一部を利用者へ売却したい。

根岸 「東大農場跡地買取りの場合は基金活用ができる」と前回の本会議で発言されたが、基金の活用は町民にわかりにくい方法だ。慎重な取り扱いを望む。

漁港背後地購入は土地開発基金を活用



整備構想の一部にかかる五ツ浦所有地は1,514.71㎡

96億円余りの大型予算は活かされたのか

原 人口の減少、高齢化が進む二宮町の中でも百合が丘・富士見が丘一丁目に顕著に現れている。昭和60年に行われた国勢調査では百合が丘の人口

原 富士徳議員

数は6千236人、世帯数1千949世帯。現在は人口4千103人世帯数1千783世帯と大きく減少している。富士見が丘一丁目においても同様な減少傾向を示している。坂道・階段の多い住宅地は高齢者には住みにくく、そのまま放置すれば更に空洞化が進む可能性がある。この様な現象に町長の対応策を伺う。

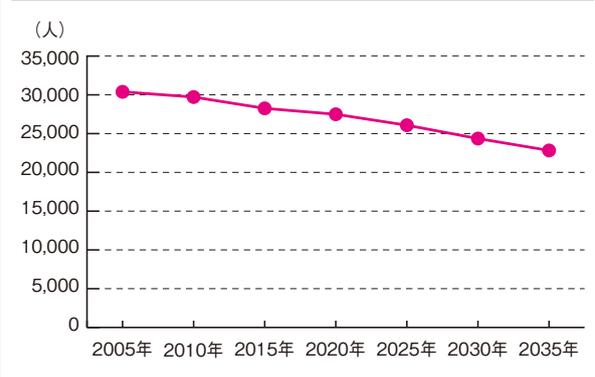
定住促進を含め活性化

町長 平成47年の二宮町推定人口は2万3千131人と予想されており人口の流出抑制するために



二宮町の人口及び指数（人口問題研究所資料より抜粋・作成）

	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)
総人口(人)	30,247	29,575	28,706	27,557	26,198	24,701	23,131
指数 (平成17年を100とした場合)	100.0	97.8	94.9	91.1	86.6	81.7	76.5



は、住む人に魅力ある町でなければならぬ。首都圏への通勤圏内であり、ほどよい田舎である二宮町を内外に発信していくことが重要と考える。平成16年に3億4千400万円で購入した国立病院跡地と22・23年度にかけ8千500万円予算で購入した土地の利用方法について、町長はふれあいトークの場などで漁場跡地を利用して二宮町において漁業の再興を試みると話されている。国立病院跡地・漁場跡地・

新たな視点で利用計画

町長 副町長を委員長とする検討委員会、国立病院跡地・梅沢海岸背後地の一体的活用についての検討を行っており庁内意見の一定方向が出た時点で示したい。

個人から寄贈された土地、更には隣接する体育館も含めた全体計画が示されていない。土地購入費、道路整備費まで含めれば既に約5億円が投入されている、具体的な利用計画はいつ示すのか。

平成22年度 決算の認定

平成22年度各会計別決算総括表及び本会議採決結果

会計名	歳入	歳出	本会議採決結果
一般会計	100億9,760万8千円	96億5,675万7千円	全会一致で認定
国民健康保険特別会計	33億5,231万1千円	33億2,505万2千円	全会一致で認定
老人保健医療特別会計	634万9千円	634万9千円	全会一致で認定
後期高齢者医療特別会計	5億9,867万7千円	5億7,055万6千円	11対1で認定
介護保険特別会計	18億9,875万8千円	18億1,004万1千円	11対1で認定
下水道事業特別会計	9億4,180万5千円	9億1,728万1千円	全会一致で認定
計	168億9,550万9千円	162億8,603万7千円	

9月定例議会は、9月2日から9月26日まで開かれた。平成22年度決算審査を中心に、平成23年度5会計の補正予算、条例制定1件、陳情3件、人事案件2件を審議した。

決算審査特別委員会は、決算書・説明資料
監査審査意見書等をもとに4日間の審査と新
ごみ積替施設整備事業、酒匂川流域下水道川
匂ポンプ場、駅南口自転車駐車場改修工事の
視察を行った。委員会の構成は次の通り。

- ★委員長 池田 宏
- ★副委員長 原 富士徳
- ★委員 小笠原陶子 神保 順子
- ★委員 桑原 英俊 添田 孝司
- ★委員 根岸ゆき子

◆討論・表決

委員会による審査の結果、根岸委員、添田委員が5会計の賛成討論を行った。

26日の本会議で、浅賀一伸、西山宗一、神保順子、根岸ゆき子の各議員が討論を行い、上記の採決結果になった。



新しく建設される
ごみ積替施設

審査意見

- ① 自主防災組織の意識向上のため、情報共有のもと、組織間の連携を深め、充実に努められたい。
- ② ごみ減量化には地域環境推進委員の力を活かし、ごみ減量情報は速やかに提供されたい。
- ③ 営農意欲を損なう有害鳥獣は、町各所に及び、被害は甚大化しつつある。広域連携を含め、速やかな対応をされたい。
- ④ こんにちは赤ちゃん訪問事業は、育児不安解消のため、より充実・拡大を図られたい。
- ⑤ 学童保育は運営方法など、より一層の充実を図られたい。
- ⑥ 中学卒業までの支援教育・教育相談には、スクールソーシャルワーカーの活用を含め、充実を図られたい。
- ⑦ 図書購入事業は、利用者の満足度の向上につながるよう配慮されたい。

一般会計 継続費精算報告について

平成21年度から22年度の2カ年で継続費として設定された新学校給食センター整備事業で、7億3千332万2千円の支出となった。その財源内訳は、国庫支出金が6千970万3千円、地方債が5億6千140万円、基金からの繰入金が3千万円、一般財源が7千21万7千円であった。

健全化判断比率及び資金不足比率から見る町財政は健全

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、健全化判断比率及び資金不足比率が報告された。全ての指標において早期健全化基準を下回っており、二宮町の財政は健全である。

浅賀一伸議員

国保負担軽減を評価 介護保険の負担に工夫を



一般会計決算の認定については賛成する。評価する施策の主なもの「駅南北の自由通路へのエレベーター設置」。要介護4、5の方を介護する家族に対し、年額3万円を支給する「在宅介護奨励金制度」の新規実施。この制度は、今後も支給額や対象者の拡大など一層の充実を求める。また、75歳以上の独居老人や災害時要援護者に配布する

「緊急医療情報シート」や「こんにちは赤ちゃん訪問事業」などはきめ細かい事業として評価する。国保特別会計決算の認定についても賛成する。この年度、国保基金から5千万円を繰り入れ、また資産割額を26%から16%に引き下げた。また今年度は資産割額を8%まで下げている。引き続き町民の負担軽減を要望する。

後期高齢者医療特別会計決算の認定については反対。75歳という年齢だけで国保や健保から追いつき、別枠に組み込む差別医療は世界に類がなく、政府も「抜本見直し」を言いだしている。高齢者を苦しめる制度には反対。介護保険特別会計決算の認定についても反対する。介護保険料も利用料も町民にとって負担が重い事が町民アンケートで明らかになっている。所得階級を更に細かく分け

決算に対する討論

て低所得層の負担軽減を。下水道特別会計は賛成。

(国民健康保険のしおりより抜粋)

保険税の 計算方法

二宮町では次の項目をもとに計算方法を組み合わせて決まります

医療分	支援金分	介護分
所得割額 ▶ 課税総所得×5.8%	所得割額 ▶ 課税総所得×1.8%	所得割額 ▶ 課税総所得×1.8%
資産割額 ▶ 加入者の固定資産税額×8%	均等割額 ▶ 加入者人数×5,000円	均等割額 ▶ 加入者人数×14,000円 ※上限は120,000円です。
均等割額 ▶ 加入者人数×24,000円	平等割額 ▶ 1世帯につき4,000円 ※上限は140,000円です。	
平等割額 ▶ 1世帯につき22,000円 ※上限は510,000円です。		

神保順子議員

町民の命を守る施策を評価 観光事業に期待



9/26
本会議

22年度決算では町税が歳入全体の約4割をきつた。人口減少や税滞納がおもな要因だが、税徴収率向上に努力したことを評価。坂本町長の最重要施策である観光事業確立

にむけての風致公園用地の買収や吾妻山公園の再整備は、観光による税外収入またそこから発展して定住者を増そうという発想からの事業だが、将来二宮町民の財産となることを期待したい。新学校給食センター建設では、学校給食の運営が滞ることなく継続して行なわれたことを評価する。今後とも学校給食の安全性に努力願う。予算より減額している部分は経費の見直しや支出の抑制によるとのことだが、学校教育などは現場に支出抑制を強いることなく子ども達の健康・安全を優先し、予算を執行されたい。救急救命士養成やAED講習会開催での普及活動は、今後心配される災害や緊急事態に備えて期待ができるが、閉館時でもAEDの使用が可能となるよう設置場所の工夫を望む。



町内の学校や公共施設に設置がすすんでいます

耐震診断事業や橋りょう安全点検調査は引き続き努力し町民の安全確保を。太陽光発電システム補助事業の効果は大きいと評価。今後継続していくことを要望。

一般会計と5特別会計決算について賛成する。

西山 宗一議員

南北エレベーター設置 駅周辺道路拡幅改良を評価



決算執行率は95・6%となった。22年度を検証すると「産業の活性化」では、中里地内の農道の完成、湘南ゴールド、落花生の普及奨励事業。漁業では朝市の充実、「漁業塾」を開催し、また、梅沢海岸防潮堤整備基本設計に着手したが今後の事業推進に期待する。二宮ブランド事業は販路の開拓など普及促進に努め



二宮小学校前の拡幅工事が
終了すれば通行制限はなくなるの？

るよう望む。

「自然環境保全」では、吾妻山公園（仮称）風致公園は、一年を通して日帰り観光の拠点となるよう計画的整備を望む。「一市二町ごみ処理広域化」では実施計画策定により安定的な処理を強く要望する。また、駅南北に念願のエレベーターが設置され利便性が向上した。駅周辺整備では二宮小学校前の拡幅改良が進み早期完成を望む。「子育て事業」では、

こんにちは赤ちゃん事業を新規に立ち上げ、子育てによる孤立化、不安解消の一助となった。また、町内橋りょう安全点検調査を実施したが、さらに防災体制の強化を要望。情報発信の充実と町民との対話の推進を望む。国保特別会計は、保険税の資産割の税率を引き下げたこと、また医療費増大の抑制に特定健診、特定保健指導等を期待する。以上一般会計他、五つの特別会計に賛成する。



町有施設・財産の一括管理 ごみの減量化などを評価

根岸 ゆき子議員

22年度決算は過去最大規模であった。その要因である風致公園用地取得事業は、26年度まで整備するが、財政負担のバランスによっては、『事業の見直し』も視野に連れて取り組んでほしい。また、坂本施策を打ち出した点で、産業復興を掲げ、力をいれた事業が経済課に集中した。落花生・湘南ゴールドの普及など、農業再生に59万円、漁業塾・さかなの朝市など漁業再生に68万円。ブランド推進協議会交付金を200万円。観光交流促進委託料300万円。漁港の安全利用と背後地活用による産業活性化に結び付けることを見通した、梅沢海岸防潮堤整備基本設計委託料625万8千円。点在する事業が結びついて活性化する見通しは立っていない。町民評

価を得ながらの進捗を望む。賛成理由は6点。
①公共施設・公有財産の一括管理②こんにちは赤ちゃん訪問事業、母子保健事業、子育てサロン事業、育児のスタート時から就学前のサポートに連続性を持たせた③更なる
ごみの減量化④HP・広報の充実の進展⑤防災訓練は自衛隊の協力で海上訓練実施。海上輸送のシミュレーションを見せた⑥教育相談・教育支援室事業、支援教育推進事業など人材育成の点で評価する。



秋口に収穫を迎える落花生
有害鳥獣との格闘は悩みの種

議会で

決まったこと

補正 予算

二宮町ごみ 積替施設設置 条例の制定について

可燃ごみを衛生的に積替えるための施設として設置する。
位置は「二宮町二宮一六七〇番一」。
平成23年12月1日より施行。

問 ごみ積替え施設設置にあたり、近隣住民への説明を行った際、問題点は出たか。

答 臭い、排水について心配の声があったが、万全を期すと説明。完成後に調査結果を検証する。との質疑があった。
全会一致で可決。

一般会計

歳入は町民税の減額、地方交付税の増額などで、総額1億3百万7千円を増額し、77億7千95万9千円とした。

主な歳出は、基金への積立金に6千56万4千円と予備費へ2千842万6千円であった。その他、財産管理経費、防災施設維持管理経費、健康診査事業、道路維持管理費などがある。

問 大腸がん検診の受診率の目標は。

答 対象者2千50人の40%を目標にしている。

問 東大農場跡地の鑑定は何をするのか。

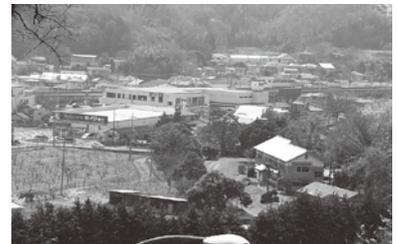
答 提示価格の妥当性を調べるために土地鑑定を行う。

問 防災無線の増設が必要な難聴地域は今回増設される川勾地区だけか。

答 アンケート調査を実施して順次増設する。

問 環境保全型農業補助金対象農家は。

答 対象は2農家。との質疑があった。
全会一致で可決。



東大農場跡地

国民健康保険特別会計

歳出は償還金及び還付加算金の679万4千円と一般会計への繰出金が692万6千円増、歳入予算の繰越金が774万2千円減額で確定したことから、基金繰入金を3千円とした。

全会一致で可決

後期高齢者医療特別会計

歳入歳出それぞれに2千662万1千円を追加して予算総額を6億1千620万1千円とした。

後期高齢者医療制度に反対討論があった。
12対1で可決

介護保険特別会計

国庫補助金、県負担金、国庫補助金の増減を補正し、歳入歳出それぞれに8千646万3千円を追加し、て予算総額を20億4千702万3千円とした。
全会一致で可決

下水道事業特別会計

歳入歳出それぞれに1千52万4千円を追加して予算総額を9億7千21万円とした。歳出は平成22年度の借入金が増額し、公債費が207万5千円減額となり、予備費1千240万2千円が増額補正された。
全会一致で可決

陳情は… どうなった？

漁業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置に関する国への意見書に関する陳情

全会一致で採択

提出者は二宮町漁業協同組合。
陳情内容は、漁業者にとって燃油費はコストに占める割合が極めて高く、魚価の低迷の中で漁業経営は深刻な状態に陥っている。現在は、漁業用の軽油引取税は免税されているが、平成21年度で道路特定財源が廃止され、この措置は一般財源となったために今年度末までとなる。漁業者の廃業を防ぎ、町民に国産水産物を安定供給し続ける為にも軽油引取税の免税措置継続を求めるもの。

子どもたちにゆたかな学びを保障するために、少人数学級の実現、教育予算の増額、義務教育費国庫負担制度の拡充を求める陳情

全会一致で採択

提出者は中地区教職員組合。
陳情内容は、政府の学校教育に関する政策や予算が不十分であり、現場を国に求めるもの。

**地方消費者行政充実のための
国による支援に関する陳情**

全会一致で採択

提出者は横浜弁護士会。
陳情内容は、現在の地方消費者行政について「地域主権改革の議論が進む中、地方自治体の意識や体制に大きな格差がある」「消費者生活相談窓口の現場で働く相談員

議案に対する賛否

町長提案番号	議案	議員名 (議席順)													結果	
		池田宏	西山宗一	小笠原陶子	浅賀一伸	神保順子	桑原英俊	原富士徳	協正文	添田孝司	根岸ゆき子	近藤行宏	二見泰弘	三橋智子		
9月定例会	34	二宮町ごみ積替施設設置条例審査について													可決	
	平成23年度	35	一般会計補正予算 (第2号)													可決
		36	国民健康保険特別会計補正予算 (第1号)													可決
		37	後期高齢者医療特別会計補正予算 (第1号)													可決
		38	介護保険特別会計補正予算 (第1号)													可決
		39	下水道事業特別会計補正予算 (第1号)													可決
	平成22年度	40	一般会計歳入歳出決算の認定について													可決
		41	国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について													可決
		42	老人保健医療特別会計歳入歳出決算の認定について													可決
		43	後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について													可決
44		介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について													可決	
45	下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について													可決		

※○は議案に対する賛成、●は反対したことを意味しています。欠は採決当日、欠席したものです。
※議長を除く13名の議員の賛否状況です。
※陳情3件および人事案件2件は除いています。

臨時会

7月19日開催

**議会推薦の
農業委員**

議会推薦の農業委員3名が全会一致で決まった。
◇小澤一夫(現・山西61歳)
◇柳川清春(新・二宮68歳)
◇原富士徳(新・二宮65歳)
農業委員の定数は14名。公選で10名、議会推薦3名、農協推薦1名で構成される。
任期は3年 (敬称略)

**固定資産評価審査委員会
委員に武田圭子氏**

固定資産評価審査委員会委員に武田圭子氏の選任について、議会は全会一致で同意した。
武田氏は二宮(元町北)在住で56歳。任期は3年。

**教育委員会
委員に小林徳博氏**

教育委員会委員、秋山俊洋氏の任期満了により、小林徳博氏が任命され、議会は全会一致で同意した。
小林氏は二宮(中里)在住で61歳。任期は4年。

発言機時間
10分30秒
現在時刻 11時 22分

町の考えを問う

一般質問

9月14日の本会議では、5名の議員が5件の問題を行政側に質問した。今回からこれまでの一括方式（1件について質問回数が3回まで）に替えて、一問一答方式（1件について質問回数は制限されないが、60分の時間制限がある）が試験的に導入された。

ここでは質問を行った本人より提出された原稿（要旨）を掲載した。

町長 現状のままで完了とは考えていない。都市基盤整備には多額の建設費を要する。優先順位をつけて取り組む必要があると考えている。



期待感、目に留まるたび…

国の補助金等、削減で
財源確保は不透明

近藤 2003年の整備計画から9年を経過しているが、長期プラン中の整備は一回だけで以後の予定が示されていない。完了がいつ頃になるのか。また、安全面として歩行者用ガードレールの設置は考えているか。松根 地区手前の道路標識（指定方向外進行禁止）に左折禁止の文字表示が必要と思う。更に道幅が狭い所の対策は考えているか。

近藤 2003年の整備計画から9年を経過しているが、長期プラン中の整備は一回だけで以後の予定が示されていない。完了がいつ頃になるのか。また、安全面として歩行者用ガードレールの設置は考えているか。松根 地区手前の道路標識（指定方向外進行禁止）に左折禁止の文字表示が必要と思う。更に道幅が狭い所の対策は考えているか。

町道63号線拡幅改良進捗と 今後の整備予定を問う

近藤 行宏議員

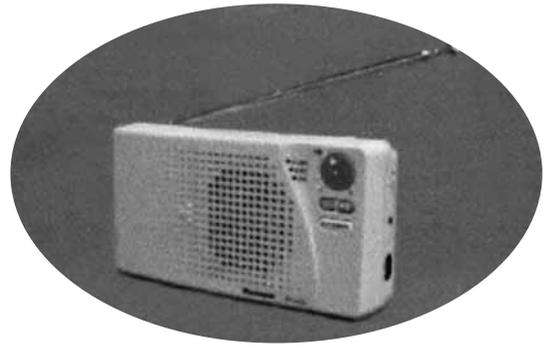
他の手法を検討していく。標識については左折禁止を徹底する啓発方法を検討したい。質問にある道幅が狭く危険な場所は認識している。幅員を狭めている原因の電柱については、移設を考えている。

近藤 土地買収計画は。町長 買収計画というのは全く考えていない。

地域防災計画の見直しと 防災体制の整備充実を図れ

神保 順子議員

神保 地域防災計画の見直しは防災会議で諮るが、過去の大震災の教訓から被災時や復興には女性の視点が重要と考えられ、内閣府では防災会議に女性委員の登用を推進している。川崎・平塚市でもすでに登用しているが二宮町でも女性委員の



防災無線の難聴地域には戸別受信機の設置も必要

登用をすべきではないか。
町長 防災会議は関係団体のトップで構成されている機関で、女性の団体が町にはないから入っていないだけだ。

神保 二宮中学校は津波災害指定避難場所となっているため、周辺住民が避難した場合の災害時に備えて、学校と自治会で連携した避難訓練を実施すべきではないか。

県の津波想定結果を待って町は取り組む

町長 現状は心配ないと考えるが、県の結果次第では今後考えていく。

神保 町内幼稚園は防災計画に位置づけられていないために緊急・災害時の連携体制ができていない。防災無線も聞こえない幼稚園があるが、戸別受信機設置や連絡体制を早急に整備する必要があるのではないか。
町民生活部長 今後、教育委員会を通じて各園と協議・連携を図り、必要な対策を検討していく。

神保 避難場所にも指定してあるため、連携体制の早急な整備を望む。
(他、防災の手引きの全戸配布とハザードマップの見直しについて質問)

西友から緑が丘入り口迄の 県道の利便性向上について

脇 正文議員

脇 西友前交差点に架かる歩道橋の所に横断歩道を造って欲しいと中里地区が要望を出しているがその取り組み状況について問う。

町民生活部長 最近では設置する方向で道路管理者と大磯警察署で協議・調整中であったが、今回県警本部に上申すると言

う回答があった。
脇 住民は生活の利便性が非常に悪く困っている。住みよい町をつくるのが町の役目ではないか。
町長 来年度の要望の中に加えていくことで理解して欲しい。

町民生活部長 道路管理者の考えでは横断歩道の設置には協力するが、歩

道橋の撤去の予定はない。
脇 西友前交差点から緑が丘入り口迄の間に横断歩道を造ることを継続して県に要望していくことが必要と思うがどうか。

横断歩道の設置は総合的に判断して困難

町民生活部長 大磯警察署の回答は総合的に判断して設置は困難。しかし道路利用者である町民の要望について今後も折を見て大磯警察署や道路管理者に相談していきたいと考えている。

脇 西友のところから緑が丘入り口迄約五百メートルあるが横断歩道が一方所もない。こんなに生活の利便性を悪くしているところはない。住民から声は出ている。是非この声に振り向いて先へ先へと進めて欲しい。



横断歩道があったらな

子どもの体内被ばく対策を 学校給食の対応を聞く

小笠原 陶子議員

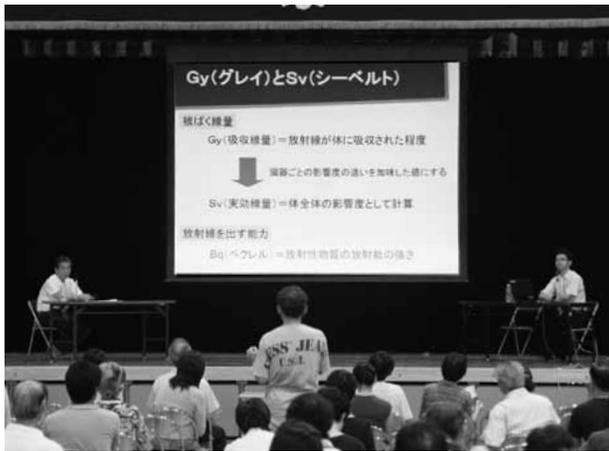
市場流通食材は安全だ
弁当持参は可能

教育長 学校給食センターでは、農産物等は、各県や関係機関が放射線測定をしており、食品衛生法の暫定規制値を超える場合には、国による出荷制限が行われているの

で、市場出荷のものは、安全と考えている。保護者から納入実績について知りたいという要望があれば、いつでも公表する。牛乳は心配なので、飲ませないようにする事も了承する。弁当持参も了承。小笠原 放射線汚染対策は、近隣自治体と広域で取り組むことも必要だ。

小笠原 6月議会で放射線被ばく対策を質問したが、町は県や国に依存する姿勢のみだ。体内被ばくを避けるため、成長期の子どもの摂取物は放射線汚染を限りなくゼロにすべき。子どもの食生活を守る手段として、学校給食がある。汚染地域の食材は使用しない。また、給食食材と牛乳は仕入業者の責任において測定を求め、安全の確認されたものを使用すべし。また、学校給食の産地を公表し、親に選択の機会を与えよ。町は、土壌・食品中の放射線物質の濃度を測定する機材を導入し、学校給食や、町民からの依頼により測定すべき。

町長 県の町村会の首長の勉強会があった。講師は太田充氏。そんな心配することは無いという意見だ。



保護者や町民を対象に「放射線を学ぶ」講演会(8/6)

町民税歳入予算作成の 精度改善について問う

添田 孝司議員

添田 歳入予算の最大項区分で約25%強を占める町民税は、第2号補正予算で2.78%、5千379万2千円減額補正された。昨年度も第3号補正予算で1億520万1千円もの額を減額補正している。納税者の多くを占める生産年齢人口の減少

傾向を考慮した予算作成をすべきでは。減収分は地方交付税で補えるか。期中での一律経費削減で繰越金による次年度予算の調整は可能か。財政見通しの町税予測は、人口推計での減少傾向と一致しないが大丈夫か。

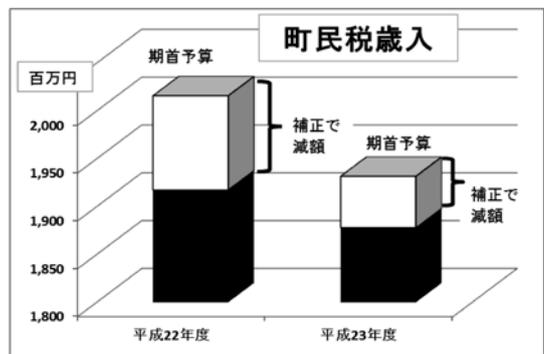
総務部長 所得割額の税収減が大きかった。町税予測は、景気と雇用問題が絡み合い推計が難しい。3%弱は他市町村と比べ精度は高い。財政見通しの町税予測は、5種類の税を総合的に、現制度の中で推計している。

政策部長 人口減の基準財政需用額への影響も考慮すべきだが、町民税の減少で、理論的には交付税の交付額は増額となる。繰越金は結果であり、財源調整行うものではない。

添田 二宮町生産年齢人口は過去10年間減少傾向にあり、町民税減収の主要因ではないか。

歳入予算は総合的判断で調整する

総務部長 予算を生産年齢人口と直接掛け算で出せない。歳入予算をある程度、積極的に見ることで事業展開ができる。総合的判断で調整する。



町民税歳入
今年もまた補正で減額

町有地の売却については積極的な対応を図りたい

庁内に町有地処分また活用を審議するための委員会を設置した。委員会で売却する土地の選定を行い、町広報やホームページ等で周知した。結果、計画した土地すべてを売却し、予算額に近い収入の確保に至った。引き続き未利用地の整理を図る必要がある。

小児医療費助成の対象年齢の引き上げを図りたい

23年10月1日から小学校3年修了から6年修了までに助成を拡大。すでに対象者には申請書を送付しているとのこと。拡大による保護者の負担軽減は大いに助かる。



町税の長期滞納者をなくすため、滞納審査会の設置を検討されたい

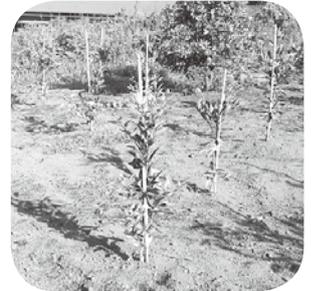
長期滞納者に特化せず、高額滞納者も含めた訪問徴収対策チームを庁内に設置し、滞納額の縮減に努めた。(取組み①呼び出し通知を毎月発送②休日・夜間の訪問③休日納税窓口の開設(毎月末)④電話催告) このことにより前年度より収納率は上がった。

予算の審査意見はどうなった？

追跡

農業再生のため、湘南ゴールドや落花生の普及に努力されたい

苗木および種子の購入に対する助成を農業者へ行い普及に努めた。今後に期待したい。



平成22年の3月議会で、議会が町に提出した「予算審査意見」を、その後どのように対処したのか、追跡してみた。

緊急雇用対策・ふるさと雇用再生交付金などを十分活用し、産業・商業振興に役立てられたい

観光交流促進事業における観光振興をはじめ、各種事業において有効に活用した。しっかりと成果を出して頂きたい。

二宮ブランドの商品を広く町民に周知するよう努力されたい

22年度は13品目を認定し、広報にのみや、ホームページに掲載し周知を図った。また湘南のみやふるさとまつり等近隣市町の各種イベントに参加し、PR販売を実施した。全国的に有名になることを期待する。



婦人会等、各地区の諸団体の活動が活発になるように行政も努力されたい

婦人会へは補助金を交付。図書館託児ボランティアなど自主運営のための支援を行なった。自立にむけてのサポートも今後行なって頂きたい。

議会基本条例講演会のお知らせ

町民の皆さまとともに二宮町の議会基本条例を策定して参りたいと考えます。ぜひご参加ください。

- ◆基調講演 廣瀬克哉氏
(法政大学教授)
- ◆開催日 平成23年10月30日(日曜日)
- ◆時間 午後1時 開場
午後1時30分 開演
- ◆場所 町民センター(大ホール)

第5回委員会は、前回開催した露木氏の講演会内容について要点を確認した。その後、条例内容の前文と目的を検討し、委員の合意を得た。また条例案は、委員3名のグループで試案を検討することを確認した。

第6回委員会は試案について議論し、全体の方向性を決め、各条項を作

成した。主な内容は、議決事項の拡大・通年議会・議会報告会など。

第7回委員会は、検討グループから試案が出され、内容について討議した。今後はグループを交代し、4名の委員で条例の逐条解説及び試案作成などを進めていく。

次回の委員会は10月21日・午前10時より開催。

議会基本条例制定 特別委員会報告

教育福祉常任委員会 視察報告

8月25日 教育福祉常任委員会で藤沢市が平成19年4月から開始したゴミ戸別収集について視察を行った。

同年10月からゴミの有料化(指定収集袋)を始めたため、可燃ごみ(資源ゴミ)が半減された。平成13年から実施している「一声ふれあい収集」はゴミの持ち出しが困難で要件に該当する人を対象に戸別収集を行なっている。高齢化が進む二宮町にとっても、戸別収集は今後の課題である。

その後、市内にある県の中央児童相談所を視察し、子どもたちの置かれている現状と施設の役割について話を聞いた。

9月9日 新装された心泉学園を視察。平成19年より「小規模グループケア」に取組み、個室中心のユニット制で家庭的な生活が送れるよう、細かな配慮がされていた。

園全体が地域との連携を大切にし、繋がりが子ども達の自立に大きく影響しているとのことだった。

議会だより編集委員会 視察受け入れ報告



7月27日(水)
愛媛県伊予郡砥部町議会
8月18日(木)
埼玉県深谷市議会

議会だよりの編集における二宮町の取組み方法について視察を受けた。各議会それぞれが特色を持った構成で編集を行っており、質疑では共通した課題が表紙写真で、肖像権に対する考え方を議論することができた。今回の視察受け入れは我々にも大変参考になり、有意義な時間となった。

高山村 訪問記

地域間交流を行っていた高山村へ二宮町の訪問団44名と、有志議員6名が参加した。

到着後、高山音頭の踊りの特訓を受けたお陰で二宮町チームは「きれいだったで賞」を獲得。名物「ひんのべ汁」も味わい交流を深めた。

翌日、役場職員の案内で福祉総合センター「チャオルの森」を視察した。「チャオル」とは子ども(チャイルド)からお年寄り(オールド)

までという造語。同センターは保健・福祉・医療サービスを一体的に提供する大規模な施設であった。その後、「一茶ゆかりの里」を視察した。同村は小林一茶が晩年頻繁に訪れた地として知られている。

両施設とも、利用者や来館者の減少が課題とのことで、同様な課題とならぬように、二宮町も施設活用には、運営に絶えず工夫が必要と痛感した。



高山村の皆様より
“熱烈歓迎!”を受ける交流参加者

町を彩る団体紹介

民俗芸能団体をシリーズで紹介します！

梅沢はやし保存会

保存会会長
脇 次郎

梅沢はやし保存会は、大正時代お祭りの行事が盛んになり、山車の制作と共に神輿の先導役として、はやし愛好家によって発足しました。その歴史は約95年に及び、先人達の努力と熱意の結果だと思っています。

行事としては1月と8月の吾妻神社祭典。八坂



梅沢の伝統文化を若い世代に引き継ぎます！

神社祭典、川勾神社祭典、二宮町民俗芸能のつどい、二宮町よさこい祭り舞台での演奏、町内カラオケ大会などに参加しています。

梅沢はやしは小田原市から大正時代に伝承されたと言われており、特徴としては小田原はやしの流れを汲み、それに梅沢独自のリズムが加味され、テンポは遅く優雅なものとなっています。二宮町では、他の地区とは違う独特の音色を印象付けています。

志保美囃子保存会

保存会会長

川口 喜宏

志保美囃子は、大正末期に大磯町小磯から師匠を招き、当時の青年会員が習得したのが、その歴史の始まりです。

昭和二年には、山車も建造され、川勾神社みそぎ祭神輿渡御の迎え、送り太鼓として引き出され演奏しました。



二宮町内唯一の回り舞台の山車
夏祭には下町内を巡行する(原歌子さん撮影)

下町の郷土芸能として山車の舞台で奏でる行道囃子は、下町の守護神である春の秋葉神社祭礼に奉納太鼓を、夏は八坂神社祭礼に山車と車屋台が町内を巡行し、秋は川勾神社例大祭神輿送迎を御旅所で行うなど各方面で祭典や諸行事を盛り上げています。

この囃子は、鎌倉時代に出来たもので一説には「鎌倉はやし」とも云われています。囃子の特徴は、曲目ごとに「舞」が入り、小太鼓・大太鼓・笛・鉦で構成し、曲目は「野帝」「宮聖天」「聖天」「仕丁面」「人婆」「きざみ」の構成で笛のリードで変化していくものです。今後は、先人が築きあげてくれたこの囃子を後世に継承して保存に努めて参る所存です。

訂正とお詫び

140号の3面「土地開発公社事業決算報告」の記事中、「4月1日施行・12対1で可決」を削除いたします。訂正の上、お詫び申し上げます。

編集室だより

「暑と寒さも彼岸まで」昔の人は上手いことを言ったものだ。酷暑の夏も彼岸過ぎには秋らしくなってきた。本誌が皆様のお手元に届くころには秋真っ盛りだろう。

昭和53年11月から8期32年間、町会議員として活躍した城所努さんが9月23日逝去された。

城所さんは平成2年より、勇退する平成22年まで20年連続して議会だより編集に尽力され、まさに議会だよりの生き字引さだった。

新人議員にも編集方法など懇切丁寧に指導し、党派を超えて愛されていた。在りし日の城所さんを偲びご冥福をお祈りする。

T・S

- 議会だより編集委員会
- 委員長 神保 順子
 - 副委員長 添田 孝司
 - 委員 浅賀 一伸
 - 委員 原 富士徳
 - 委員 近藤 行宏
 - 委員 二見 泰弘